

今と未来をつなぐキャリア教育の推進

明和町は、群馬県教育委員会から平成26年度から28年度までキャリア教育実践推進の地区指定を受け、実践に取り組んで来ました。

キャリア教育は、これから変化に富んだ社会を生き抜く子どもたちに、必要な資質や能力を身に付けさせるために、群馬県が第一の教育施策として取り組んでいます。明和中学校では、「課題対応能力を身に付けた生徒の育成」をテーマに研修を行ってきました。これは、「授業中に【課題対応能力】を身に付け、どのように次の授業に生かしていくか。」ということです。課題対応能力とは、学習課題に対して解決への見通しをもち、筋道を立てて対応し、導き出した結果を表現できる力のことです。将来的には、子どもたちが社会人として直面する課題に対応し解決できる力になるものです。明和中では、各教科の授業において課題対応能力を身に付け、どのように見とっていくか、各教科で実践を重ねました。

10月4日に県内の先生方をお招きして美術の授業公開を行いました。



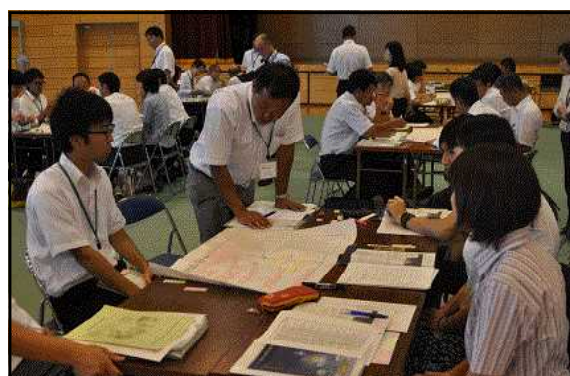
【友達と話し合いながら自分の作品を工夫する】



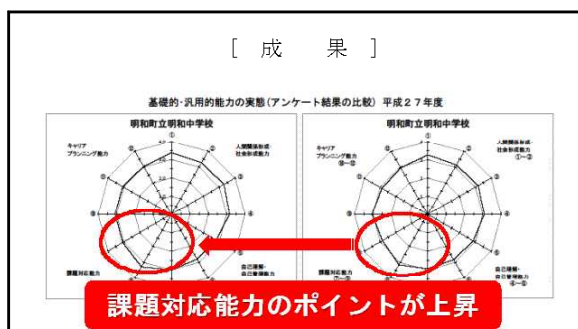
【友達から聞いて工夫したことをまとめる】



【クラス全体で個人の工夫点を共有する】



【職員の授業研究会】



【課題対応能力の定着】

その他にも小中連携の取組として、早川先生が東小で出張授業を行い、義務教育9年間として課題対応能力の育成に努めたり、職場体験学習の事前事後指導を計画的に行い、働くことに対する気持ちの変化を読み取って、次の指導に生かしたりしてきました。

明和中学校 早川裕彬先生の出前授業

現在、各クラスで絵画作品展に向けて、読書感想画の作成を行っています。そこで、5・6年生の図工の時間に、明和中学校で美術を担当している早川先生に来校していただき、現在取り組んでいる読書感想画の指導をしていただきました。

今回、早川先生に来ていただいたことは、中学校の先生の専門的な美術指導をしていただくと共に、キャリア教育の一貫としての小中連携と、子ども達が中学校の先生の直接指導を受けることで、中学校での授業や雰囲気を感じ取ってもらい子ども達が中学校へ行ってつままないような中1ギャップの解消としての目的もあります。

6年生は「北加伊道」、5年生は「きつねの窓」という本を読んで、自分の表したい場面を絵に表現します。【表したいものを決めて下書きや色塗りを工夫しよう】というねらいのもと、描く時のポイントを子ども達に理解させるために、早川先生は自分が描いた絵を見ながら、「何が好きなのか」「描きたい物をどのように表現しているか」「色使いの工夫はどのようにしているのか」「どのように絵筆を使っているか」など、絵を見て気付くような投げかけをしながら授業を進めていました。

子ども達は早川先生の質問に真剣に答え、集中して授業を受けていました。学んだことを生かして、素晴らしい作品ができることを期待しています。作品展示をいたしますので、楽しみにしてください。

【早川先生の東小での出張授業】



〈考察〉

職場体験学習を通して、自分の興味・関心について改めて理解できたようです。

与えられた仕事に対して責任を持つという考えを、多くの生徒が学ぶことができたようです。(④⑤⑥)

また働くことの意義や学校で学んだことを、自分の将来とのつながりで考える視点を持つことができたことも評価できます。(⑧⑩)

【職場体験学習での取組】

今後は、進路実現に臨む3年生に対して将来を見据えた上での適切な進路指導にも3年間の成果を生かしていきます。人工知能の発達などで約50%の職種がなくなり、新しい職種ができるとも言われる近い将来、子どもたちが自ら生き方を切り開いていけるように、明和中では今後もキャリア教育の取組を充実させていきます。